

ビジョン

(目指す社会像)

ひとりひとりの若者が 自分の未来に希望を持てる社会

人には、たくさんの可能性があります。しかし、環境や周囲の人との関係性のなかで可能性が閉ざされ、本来持っている自分を発揮できない若者に会えることも多くありました。

そんな背景から、「自ら這い上がって立ち直れる」という意味でなく「周囲の人の手を借りて、自分なりの一歩を踏み出せる」という意味をこめました。

生きていくなかで嬉しいことも辛いこともありながらも、「まあ、これから大丈夫かも」と思えるような。

それが、「自分の未来に希望を持てる」ということだと思っています。わたしたちは、若者がどんな境遇にあったとしても自分の未来に希望を持てる社会の構造をつくります。

ミッション

(D×Pが成すべきこと)

ユース世代に、 セーフティネットと機会提供を

ユース世代は13-25歳までの若者のこと。大人のようにも見えるユース世代ですが、実は経済的資本などの使えるリソースや選択肢が大人たちよりも限られています。少子高齢化社会でユース世代の意見は反映されづらく、かれらに必要な公的サポートが後回しにされやすい状況です。自分の未来に希望を持てるかどうかは、本人の家庭環境や経済状況に左右されやすくなります。経済的困難・中退・不登校・虐待・無業...など様々な困難が組み合わさると、選択肢の限られるユース世代は、たちまち立ちゆかなくなります。自らの境遇に左右されずに「この先大丈夫かも」と思うためには、健康で文化的な生活と、ひとりひとりが一歩前に進めるような機会が必要です。

D×Pは、困難な環境下にあるユース世代にセーフティネットと機会を提供します。ユース世代が今いるところに自らの足でおもむき、公的機関だけでは補いづらい、民間によるセーフティネットをつくります。自分たちだけで解決しようとせず、世の中にすでにある多様な機会(人、企業、地域)を活かし、つなげます。世の中にまだない機会は、D×P自らつくります。



ロゴに込めた思い

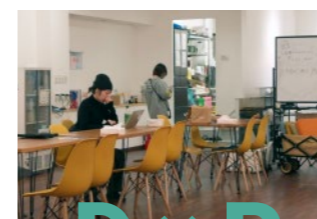
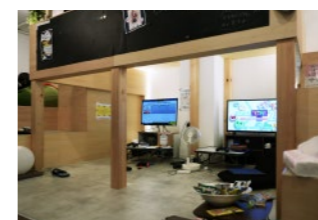
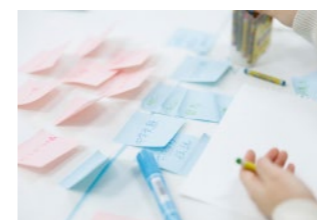


「可能性も困りごと両方を見つめ、ひとりひとりの若者に関わっていく」という決意を込めて、明暗のグラデーションを持ち、ともに未来へと進んでゆくイメージを伝えるために夜明け空から2色を配しました。

「d」と「p」の斜めのまっすぐなラインは、「常に時代の変化に即して革新的な取り組みを行ない、社会的インパクトを出す」ことを、線の中央はユース世代と社会をつなぐ「結び目」を表現しています。

このロゴマークは、2016年に制定されたロゴを元に、D×Pの活動領域の変化・ブランドイメージの変化に合わせて2021年にアップデートしました。

D×Pと、ひとりひとりの若者をご支援くださっている皆様へ
感謝を込めて。



D×P ANNUAL REPORT 2023-24

10代をひとりしにない ディーピー
認定NPO法人 D×P

活動報告書 2023-24

認定NPO法人 D×P

大阪 本社 〒540-0032
大阪市中央区天満橋京町1-27 ファラン天満橋33号室

東京 事務所 〒107-0062
東京都港区南青山6-2-9 南青山NYKビル7F

✉ info@dreampossibility.com ① www.dreampossibility.com
✉ @npodxp ② www.facebook.com/npodxp

銀行	ゆうちょ銀行 〇九九店 当座 0332445 楽天銀行 第二営業支店 普通 7079724
理事	今井紀明 / 村中直人 / 入谷佐知
監事	毛受芳高
アドバイザー	辻由起子 / 田中宝紀 / 浅見清夏 / 東信吾
顧問弁護士	高橋健
顧問社会保険労務士	和田絃子
写真	西川優介
デザイン	雷崩式

月額寄付
サポーター
募集中!

月1,000円からの月額寄付で
D×Pの活動に参加できます。



D×Pへ寄付していただくと、
最大約**40%**のお金が戻ってきます!

月1,000円のご寄付を1年間すると、最大約**5,000円**の控除

D×Pは、大阪市から認定を受けた「認定NPO法人」です。
認定NPO法人へのご寄付は、税控除の対象となります。
地方税も寄付金控除の対象となりますが、控除割合は各自治体によって異なります。
詳細については、各自治体にお問い合わせください。

チャット相談員が目の当たりにしている若者のリアル

「ユキサキチャット」には日々、不登校や進路の不安、親からの虐待、ネグレクト、また、公共料金や携帯電話の料金を滞納してしまっている……などなど、さまざまな相談が寄せられています。日々“声”を受け止めているユキサキチャット相談員の話の聞きました。

困窮している大学生が想像以上に多いという驚き

—ユキサキチャットは登録者が1万3,000人を超えています。どれくらいのケースを担当していますか？

M：相談員ひとりあたり、60人～100人ほどを担当しています。そのなかでも、喫緊で集中的なやり取りが発生する方もいれば、「最近どう？」と見守りで声をかけたりする方もいるので、頻度にばらつきはあります。相談に関わるスタッフは20人ほど。直接相談者さんとコミュニケーションを取る相談員から、食糧支援の作業スタッフ、事務スタッフ、さらには、より円滑な支援を可能にするための業務改善のスタッフやエンジニアまで、多様な職種が協力し合っています。

O：D×Pはスタッフのポリシーとして「否定せず関わる」を大切にしていますが、ユキサキチャットにおいても、相談者さんに「大切にされた」「ちゃんと話を聞いてもらった」という経験を得てもらうことが大事です。たくさんの相談者さんと向き合っていく上では、常に業務効率化や一部業務の自動化も求められてきますが、効率化することで失われていくことはないか、といつも気にかけています。

—若者を取り巻く状況について、相談をするまで気づかなかったこと、相談をして初めて知ったことは？

N：お金に困っている大学生がこんなにもいるのか、と最初は驚きました。私はもともと行政職員として児童相談所で働いていましたが、そこは18歳を超えると支援の対象外になりますし、大学生は原則生活保護を受給することができません。でも、親に頼れない状況だと、自分で学費も生活費もやりとりしなければならず、借金が膨らんでしまっているというケースがあります。大学まで行けるということは、家庭環境も整ってるし、本人の能力もあるし、大丈夫でしょ、みたいな社会の認識が制度にも表れているように思います。

親が子どもの面倒を見ないということと社会が想定していない

M：私は前職で精神科に勤務していたのですが、18歳未満の方の場合、親が病院に連れてきて初めて、適切な治療やリハビリなどの支援が可能になります。ユキサキチャットに相談を寄せてくださる方のなかにも精神的に不調をきたしている方がいますが、親の協力が得られにくい家庭だと、医療につながる以前の状況下で苦しんでいるということがわかりました。

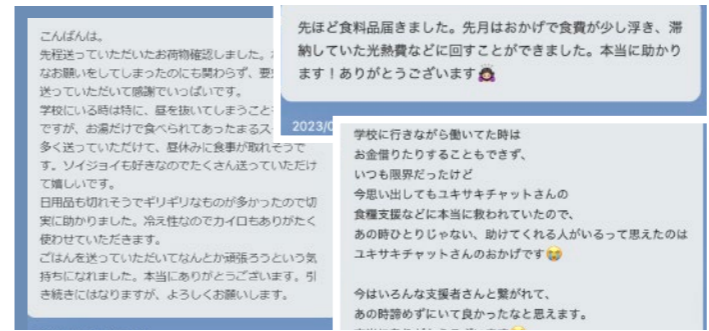
一概には言えませんが、その精神的な不調の背景には虐待やネグレクトなど、成長過程でのトラウマが強く影響していることも多いです。親が子どもの面倒を見ないということと社会が想定していないんですね。だから、親を介さず、子どもだけでつながれる「ユキサキチャット」のような相談サービスって本当に大切だと思ったんです。

O：あと、困難のバリエーションがとてもたくさんあると感じています。親からの虐待の経験と、精神疾患を抱えていて働くことができず、経済的にどんどん困窮してしまい家を失う直前までいってしまった、という人もたくさん見てきました。一つの問題だけじゃなくて、いろんな問題が複合的に絡み合っているんですね。自分で窓口に行かなければ支援制度につながるできないわけですが、それが、困難のまったなかにいる

人たちはやっぱり難しい……

N：行政は、たくさんの問い合わせや、困難な状況で長期間関わりが必要な方の対応をすることがあり、目の前の方への対応で精一杯なこともあると思います。また、世代やその人が抱える状況によって、必要な情報やサービスが届いていないことや、行政につながる手法が来所や電話などに限定されていることにより、サポートが得られないままの人がいることもあると感じます。

O：そうなってくると、やっぱりオンラインで自分のことを気軽に相談できるサービスは大切なのかな、と思います。家庭の貧しさって、なかなか身近な人には相談できなかつたりします。友だちでも家族でもない相談員なら気軽に話せることってあるのかもしれないと思います。実際、「身近な人にはこんなこと話せませんでした」という声をけっこう聞くんです。みんな、ほんとうにお金に困っています。公共料金や携帯代、奨学金、借金の滞納が多い。夏にエアコンを我慢して、冬にガスがつかないという人もけっこういます。借金は、消費者金融もありますが、いま、スマホ決済で「後払い」とかちょっと耳障りのいいものが増えてますよね。分割手数料や金利を知らないで使っていたりするのですが、誰も教えてくれないので、本人だけのせいではないと思います。



食糧や現金給付と相談支援を通じて、滞納していた光熱費を支払えた、お昼ご飯を食べられるようになったなど声が届いています（画像はご本人の許可をいただいています）。

否定され続けてきた子どもたちと向き合うために

—相談に乗っていく上で、気をつけていることはありますか？

M：やっぱり「否定せず関わる」が一番大事かと思います。相談を寄せてくれる方は、いままで、家庭や学校、公的機関の窓口などで何かと否定されてきた方が本当に多い。皆さんのお話を聞いていると、親や先生には「社会的にこうあるべき」という強い規範が存在しているような気がして、良かれと思ってやっていることが子どもを追い詰めているケースが多いと感じます。長時間労働や経済状況の悪化などの社会的背景もあり、大人の方も全体的に余裕がなくなっているのかもしれない。いまの10代が日々触れる情報や、さまざまなコンテンツによって培われる価値観と、親の世代に決定的にズレがある。子どもが危険な行動をとろうとしていた場合など、ときには大人として止めなければならないこともあります。その背景に「どんな思いがあるのか」は否定せずに受け止めなければならない。私も親の世代なので、自戒を込めてそう思います。

N：あと気をつけているのは、「ユキサキチャット」のその先につなげていく、という意識を持つことでしょうか。25歳という年齢制限もあるので、

「ユキサキチャット」とのつながりが切れてしまったらまたひとり、ということにならないように、と思っています。

Mさんが言っていたように、ユキサキチャットで「話を聞いてもらえた」ということを成功体験にしてもらって、「ここに相談してもいいかも／この人に話してみようかな」と、つながりをつくるきっかけや、一歩になれたらと思います。

以前、相談を受けた方の状況から、ユキサキチャットだけではなく、直接サポートを得られる場所へつながることが必要と思いました。でも、ご本人は学校や役所に相談するハードルがものすごく高いと。なので、「私たちは（あなたの置かれている）こういう点が心配だと思っています…ユキサキでできることは一緒に考えてやっていきたいけど、ユキサキ以外の人の力も借りながら一緒に考えていきたい。」と伝えた上で、どんな場所だったら相談できそうかとご本人と一緒に考えました。それが負担や過剰なアドバイスにならないよう気をつけながら、でも、背中が押せるような声掛けができればいいな、と思っています。

「自分のまわりにはそういう若者はいない」で終わらせずに知ってほしい

—「大人」が子ども、若者のために、どんなサポートができるでしょうか？

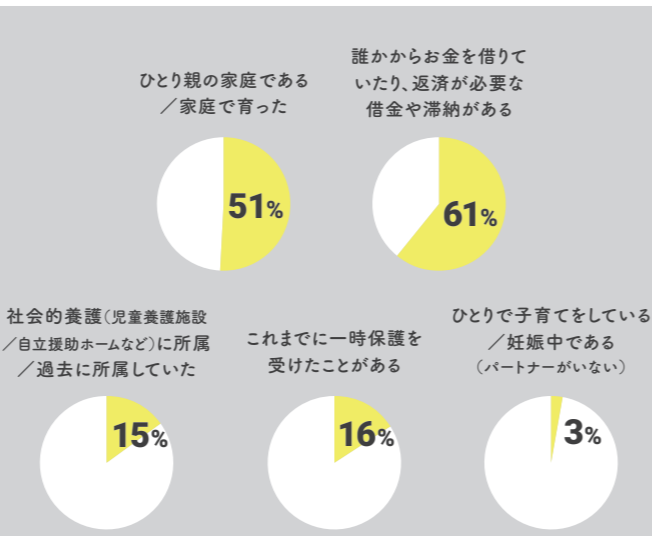
N：私自身もそんなんですけど、人間はどうしても自分の見える範囲で自分の経験したことが「当たり前」になってしまいます。それをいかに広げていこうかが求められているんじゃないでしょうか。この記事を読んだ方は「自分のまわりにはそういう若者はいない」と思うこともあるかもしれませんが、でも、実際に社会には存在している。それを知って、ぜひアンテナを立てていただきたいと思っています。

M：いまNさんが言ってくれたことにもつながるんですけど、「貧困」って、ポロい家に住んで、ポロい服を着て……っていう昔のイメージがまだ強いと思うんです。でも、いまはけっこう安い値段で身なりを整えられるので、実はスマホの料金が払えていないとか、ずっとモヤシばかり食べてるとか、そういう「外からは見えにくい貧困」が多いと感じます。虐待に関しても、身体的なもの以外に、親が精神的に不安定だとか、ネグレクトもあります。ヤングケアラーもいます。いまの制度は世帯ベースの支援が主流なので、子どもが直接支援を受けられないケースも多い。目に見える姿と実態のギャップがある方もいるんだ、ということを知ってほしいです。

O：私自身、精神的に不安定な親のもと機能不全な家庭で育ったんですけど、当時たまたまオンラインゲームで知り合った大人の人に話を聞いてもらえたことが心の支えになっていました。振り返ると、あのとき社会にこういう支援制度があったらよかったな、と思うことがあります。現在も、3歳の子を育てながら「保育園入れない」「教育費めっちゃかかる」など、社会のなかでいろいろと気づくことがあるのですが、そこに不平を言うだけでなく、実際に変えていく側になりたい、という思いがあるんです。実際に何か行動をしないまでも、まずは知ることが第一歩だと思っています。誰か知っている人に情報を共有するだけでもすごいことだと思います。

この社会の仕組みを変えていくための大前提として、うまく言えないですが、「みんなに仲間になってほしい」という思いはすごくありますね。

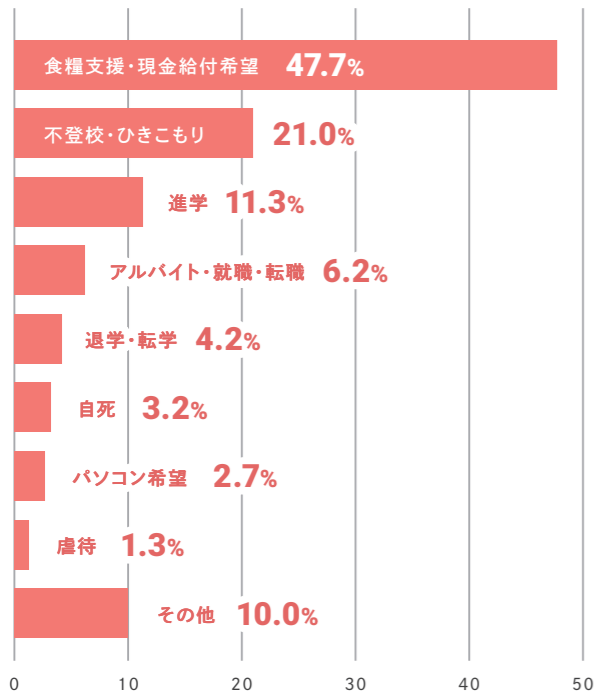
2023年度食糧支援・現金給付申込数 (n=908) のバックグラウンド



ユキサキチャット (LINE相談)

オンラインで進路・就職に悩むユース世代と出会い
ユキサキチャット (LINE相談) でサポートします。

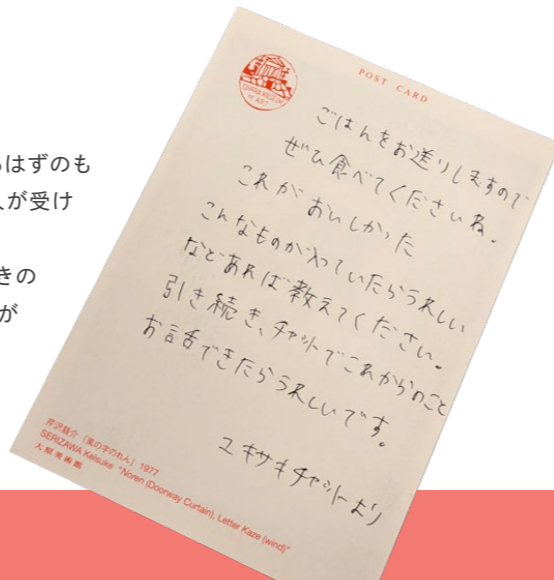
相談内容の内訳 (n=1883/複数選択可)



食糧支援・現金給付を希望する方が増えています。生活必需品の値上げなど物価上昇は困窮している人ほど相対的に負担が重くなります。特に12月と1月の発送数が多く、2ヶ月で562箱で過去最多の食糧発送数となりました。

データの一元化による相談対応強化

ユキサキチャットでは、LINEのAPI連携システムを使っていますが、本来自動化できるはずのものを手動で行なう業務があり非効率な状態でした。kintoneのシステムを導入し、個人が受けた支援の情報が一元化される状態をつくりました。システムで自動化・効率化することで、食糧支援の初回申し込みの方に同封する手書きのメッセージを再開することができました。複数の相談者さんから「手書きのメッセージがうれしかったです」などの声をいただきました。ユキサキチャットに相談した方が、「相談してよかった」「話せてよかった」という経験ができることを大切に活動しています。



登録者数

13,054人

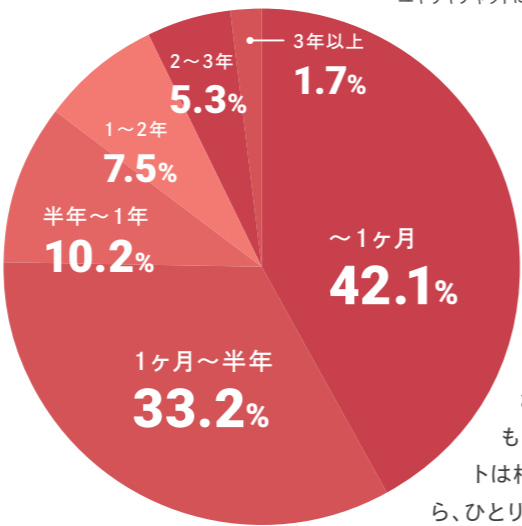
対昨年比 \uparrow 2,607人増

相談者数

6,089人

対昨年比 \uparrow 1,152人増

相談対応を継続している期間 (n=3368)



2023/4/1~2024/3/31までの期間、1回以上本人からユキサキチャットに連絡があった方(登録のみの方も含む)

チャットでの相談は、相談をさばいているように感じるかもしれませんが、ユキサキチャットは相談者の望む状態を聞きながら、ひとりひとりと関係性をつくり生活安定に向けて伴走をしています。そのため長期の関わりを持つ傾向にあります。

case

大学生のEさんは親からの経済面のサポートがなく、奨学金とアルバイトで学費と生活費をまかなっています。物価高の影響から食費や医療費を切り詰めて何とか生活していたものの、アルバイト中にけがをしてシフトが減ったことにより生活が厳しくなり、ユキサキチャットに相談。通院や当面の生活のサポートのために現金と食糧の給付を実施しました。アルバイト探しの相談にも乗り、結果新しいアルバイト先を見つけて収入が増え、体と心も少しずつ元気になってきています。

食糧支援・現金給付

食糧支援

87,810食
655人

22年度より23,250食増で発送しました。体調面で不安を抱えている方や、大学生で生活保護の受給対象とならない方など多くの方から相談がきています。

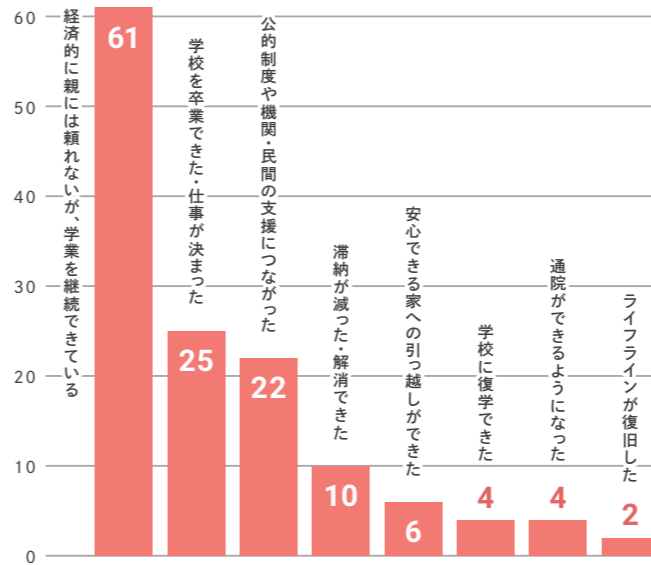
現金給付

21,162,000円
416人

さまざまな専門性を持ったスタッフが集まってきており、適切な社会資源に迅速につなぐなど現金給付以外の対応策を検討しやすくなりました。その結果、8万円給付の数は減っています。今後は現金給付のよりよい形を模索していきたいと思っています。

6ヶ月~12ヶ月の長期食糧支援を実施した結果

(n=149/複数選択可)



6ヶ月以上の食糧を届けた若者は149人、12ヶ月以上の食糧を届けた若者は45人でした。進学先は決まっていますが、親からの仕送りが全くない場合や、自分でアルバイトをしながら学費を稼いでいる方もいます。相談があった当初は、学費の支払い目処が立っていないという相談者も多かったのですが、6ヶ月以上食糧を届けた若者の約40%が、「学業を継続できている」と答えています。届けた若者からは、「生活に余裕が生まれただけでなく心理的な面でも頼れる先があるというだけでかなりの余裕ができ、安心して勉学に励むことができました」「家族を頼れない私にとって1番の精神的な支えでもあり生活の支えでもありました」との声がありました。

case

Fさんは幼少期より親からの虐待があり、親には頼れない状況でひとり暮らしをしていました。以前勤めていた職場でのハラスメントにより体調を崩し、退職したタイミングでユキサキチャットに相談がありました。精神面での不調からごはんが食べられていないことが分かったため、現金給付と6か月間の食糧支援を実施しました。Fさんはユキサキチャットから情報提供した支援機関に相談に行き、現在は障害年金の申請と就職活動をしています。

リユースパソコン寄贈&IT企業見学ツアーを実施

株式会社ゲットイットさまと共催しユキサキチャットで関わる若者にパソコン寄贈と、ゲットイットさまの会社見学を実施しました。また、寄贈予定のパソコンを整備し、IT機器リユースの一部を体験する機会をつくりました。参加者の中には「普段、自分からは見えない所で使われている機材を見られたのがよかった。機材の内部まで見せていただけてよい経験になりました」「働いている方が楽しそうに職場の話をしていて、自分に合った仕事だとこんなに楽しそうに仕事ができるのかと感じました」という声がありました。



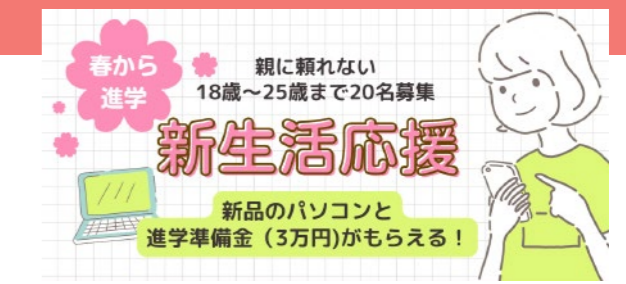
2024年度のユキサキチャット

ユース世代へのリーチ強化

23年度は助成金を活用しSNS広告を実施した結果、約400人のユース世代が、SNS広告経由でユキサキチャットに登録しています。24年度は1年間を通じてSNS広告を運用し、より多くの困難を抱えたユース世代と出会える仕組みをつくります。

データを活用した情報発信の強化

kintoneで一元化したデータを活用し、ユキサキチャットに相談するユース世代の現状等を社会に発信していくことを目指します。そのためにも、専門家のアドバイス等を受けながらデータの整理や分析、より適切な情報発信の方法などを模索していきます。



新生活応援パックの実施

春から大学や専門学校などに進学をする予定の方20人に、進学準備金として3万円とパソコンを届けました。また、学校生活に慣れるまで最大1年間の食糧を届けました。大学生活においてパソコンは必須ですが、買うだけのお金を用意するあてがない、デザインの勉強をしたいが自宅のパソコンは自由に使えないなど、新生活に不安がある方から応募をいただきました。

オフラインの取り組み

定時制高校のなかで10代と出会いつながる取り組みです。

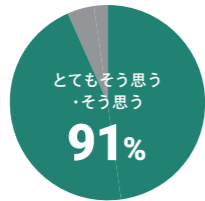
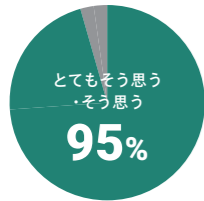
クレッシェンド

高校生とD×Pのボランティア「コンポーザー」が対話する全4回の授業。ひとりひとりに寄り添いながら関係性を築き、人と関わってよかったと思える経験をつくります。

クレッシェンドアンケート (n=46)

出会った人と関わってよかったと思いますか？

いろんな生き方・考え方を知ることができましたか？



先生の声 S先生

ナナムの関係が生まれる有意義な機会

定時制高校には本当に多様な生徒たちが通っています。人とコミュニケーションをとることが苦手な生徒も多い中、D×Pのスタッフやボランティアの方が、親でも先生でも友達でもないナナムの関係として関わっていただけることは、とても意義のあることだと実感しています。

例えば、「クレッシェンド」にいたスタッフさんが「いごちかふえ」にもいる。「いごちかふえ」でゲームをしていたら、「仕事体験ツアー」に誘われた。「仕事体験ツアー」には「いごちかふえ」で話していたスタッフさんがついてきてくれる。そのように、D×Pのそれぞれの活動が相互に関連していることで、生徒たちが安心して参加してくれているのだと強く感じます。生徒たちが身近な大人とつながり、そして地域社会とつながっていく機会を提供していただけることが本当にありがたく思います。

コンポーザーの声 野田隆史さん

先生としての自分とは違う関わり方

普段は教員をしています。教員だと悪いことは悪いって言わなアカン場面が結構あって、D×Pの「否定せず関わる」のが難しいところがありました。でもD×Pに関わって、先生としての自分とは違う関わり方ができてきた気がします。

思い出としては、ギターを弾いてみたいという子がいたので少し教えたら、どんどん上達していき、すごいなと思っていただけ、卒業する年に文化祭でギターを演奏して歌いたい。その姿を見て感動しました。彼の中でもすごい自信になっただろうし、私もすごく良い経験をさせてもらったなと思ってます。

でもやっぱり、自分が1番楽しくて参加していました。まず自分が楽しいのでみんなも楽しんでくれたら嬉しいです。目標は友達でもないけど、いじれる大人。そういう人になりたいので、これからもD×Pには関わり続けたいと思っています。



コンポーザーの参加人数

のべ **127** 人

関わった生徒数

実数 **121** 人
のべ **1,200** 人

クレッシェンド4校/居場所2校で
関わった生徒・参加したコンポーザー
の合計

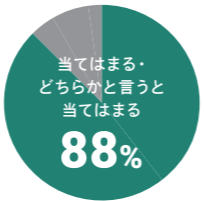
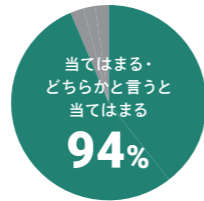
居場所事業

週1回、居心地の良い空間を学校のなかにつくります。地域の方などが訪れ、高校生が定期的にさまざまな人とつながることができる場でもあります。

居場所事業アンケート (n=48)

いごちかふえがある日は楽しみに思えますか？

話ができる大人が増えましたか？



「生徒と社会をつなぐ事業部」マネジャー 大宅穂香

多様な人とのつながりがつくれる場

通信制や定時制に通う生徒みんなの、たくさんの素敵なところをそばで見させてもらったと思います。クレッシェンドでは、大人もドキドキしながら関わり、回数を重ねるなかでいつの間にかコンポーザーさんとすごく話し込んでいることや、生徒同士で連絡先を交換する場面を見ることがありました。はじめは声をかけてもあまり返答がないことがありますが、最終回は「また来てな」と言われることもあって、たった3、4回の関わりでもこんなに変化があるんだと感じる取り組みでした。いごちかふえでは継続して関わるので、入学から卒業まで、その日嬉しかったこと、悲しかったこと、言葉にできないことややること、たくさんの感情を共有しました。趣味の話や詳しく教えてもらったり、これまでできなかったことにチャレンジしたり、マジックや折り紙を上手に披露する様子なんかを見て、学ぶことも多くありました。目的なく過る場が学校にあり、そこで多様な人とのつながりがつくれるということに、意義を感じています。



コンポーザーの声 糟野圭佑さん

子どもたちに教えてもらうことばかりだった

いま社会人3年目です。僕自身中学校や高校にあまりいい思い出がなかったので、居場所事業に参加して子どもたちの笑顔を見たことで、すごく充実感がありました。それとたくさん発見をもらうんです。一緒に学ぶというか、子どもたちに教えてもらうことばかりでした。アニメがすごく好きな子と将来のことを話し合ったことがあります。自

分の将来だけでなく、これからの日本の話にまでなって、なんでこんなに鋭い考えをもてるんだろうと思いました。それと私は音楽がすごく好きなのですが、自分が好きなジャンルにとても詳しい子にたまたま出会って、その子の影響でDJスクールに通い始めました。子どもと大人という関係ではなく、ひとりの大人として学ぶきっかけをもらいました。僕が出会った子たちは専門学校に進んだり、社会に出る人が多かったんです。そういう意味でも、一般企業で働いている僕たちが話を聞いたり、一緒に話したりできたのは子どもたちにとって意味があるものだったのかなと思っています。



生徒インタビュー

Sさんは定時制高校をこの春に卒業しました。高校でクレッシェンドを受け、ミスが怖いから挑戦するのをやめておこうとするいままでの自分から、興味のあることにどんどんチャレンジするようになっていったといいます。そんなSさんに、D×Pと出会ってよかったことをお聞きしました。

「もしかしたらミスしてもやり直せるかも」って気づいた

—クレッシェンドに参加して価値観が変わったって言ってたけど、何がきっかけだったのかな？

Sさん：コンポーザーさんから、自分の人生いろいろつまづいたけどいまは笑顔でおるみたいな話を聞いて、なんでなんやろうって疑問に思ってた。その話を聞いて、「もしかしたらミスしてもやり直せるのかも」って気がついた。それまでは将来がとても不安で。ミスする可能性があるんやったら挑戦するのやめとこうっていう性格やった。でもD×Pさんのおかげで変わった気がする。知らない人の人生なんて聞く機会ないじゃないですか。有名人が「昔は大変でした」とかって聞くのはあんまり好きじゃなくて。でも普通の人の人生談は聞くのめっちゃ好き。自分が経験してないことを相手がしたりすると、面白いし勉強になるから。クレッシェンドではいろいろなゲームとかもしたけど、自分は経験談を聴くのが一番好きだったな。

いろいろチャレンジしてみたいことがある

—ミスしても大丈夫って思えたんだね。高校生のときはどんなことが好きで、どんなチャレンジをしてみたのかな？

Sさん：最初は天体が好きだったから理科の先生になりたかったり、授業で韓国語も習ってたし、文化とか食べ物、K-POPとかも好きだったから、韓国の大学で勉強したいなって思ったりしたこともあって。でも卒業後のことを具体的にイメージできたのが美容師だったので、この春から専門学校に通うことにしました。

さっきも言ったけど、クレッシェンドに参加してミスしても大丈夫じゃんって思ったこともあって、高校ではどんどんチャレンジできるようになった。卒業する年にコンポーザーさんの企画に参加して、それまでギターもほとんどやったことなかったけど文化祭でみんなの前で演奏することになって。でも練習したらできるようになって、いまはベースとかピアノとかにハマってる。

いままでの経験上、ひとりだけやったら絶対やめるのは分かかって。自



Sさんはギターを弾くことが好きなのだそう

分は3日坊主だし、熱しやすく冷めやすいところもあるから。多分ギターもみんなで一緒に文化祭でやるから続いたんだと思う。文化祭でも急に人前で、あんな全校生徒と先生となんか来賓の人とかいっぱいいるとこだったけど、緊張せえへんかった。高校はめちゃくちゃ楽しかったって思う。



D×Pの事務所でインタビューに答えるSさん

いごちかふえがあってよかった

—いごちかふえ(居場所事業)にもたくさん来てたけど、どんな風に思ってたのかな？

Sさん：いごちかふえはみんなが接しやすかったから、ずっと楽しかった。好きな映画の話も僕と合ったし、友だちの輪が広がった感じだったな。4年生になったとき、卒業した子らが一気におらんくなって、4年生は自分含めて3人になっちゃった。なんで高校4年制を選択したんやろうって言ったのもめっちゃ覚えてる。ちょっと寂しいというか。だからいごちかふえには、4年生になってからが1番長いたかな。さんちゃんとかほのか(D×Pスタッフ)がおったから安心できた。でも2人がもしいなかったら、長くはおらんかった気がするから、特に4年生のときはいごちかふえがあってよかったなって思う。

2024年度以降の定時制・通信制高校での事業の一時停止について

2024年4月以降、すべてのクレッシェンドおよび居場所事業の活動を一時停止することにいたしました。一時停止の理由や背景はD×Pのwebサイトに詳しく掲載しております。2012年に通信制高校1校からスタートしたクレッシェンド。これまでに居場所事業とあわせてのべ127校の学校と関わり、12年間で関わった生徒数は5,791人となりました。これまで、本事業を寄付、ボランティア、食事提供などさまざまな形で支援してくださったすべての方々に、お礼とご報告を申し上げます。

詳しくはこちらよりご覧ください



ユースセンター

居場所を求める若者が集まる
道頓堀のグリコ看板付近(通称グリ下)で
2022年8月から若者が無料で使える
フリーカフェをスタート。
2023年6月からは新しく
ユースセンターを開設しました。

まずはごはんを食べられる、寝られるなどの安全な環境や、
自分の状態や気持ち、権利が尊重される経験が必要です。
そのままの自分を尊重される機会を積み重ねるなかで、
自分の意思や自己決定の瞬間が生まれると考えています。

実施回数

73回

利用者数(のべ)

3,991人

食事提供数

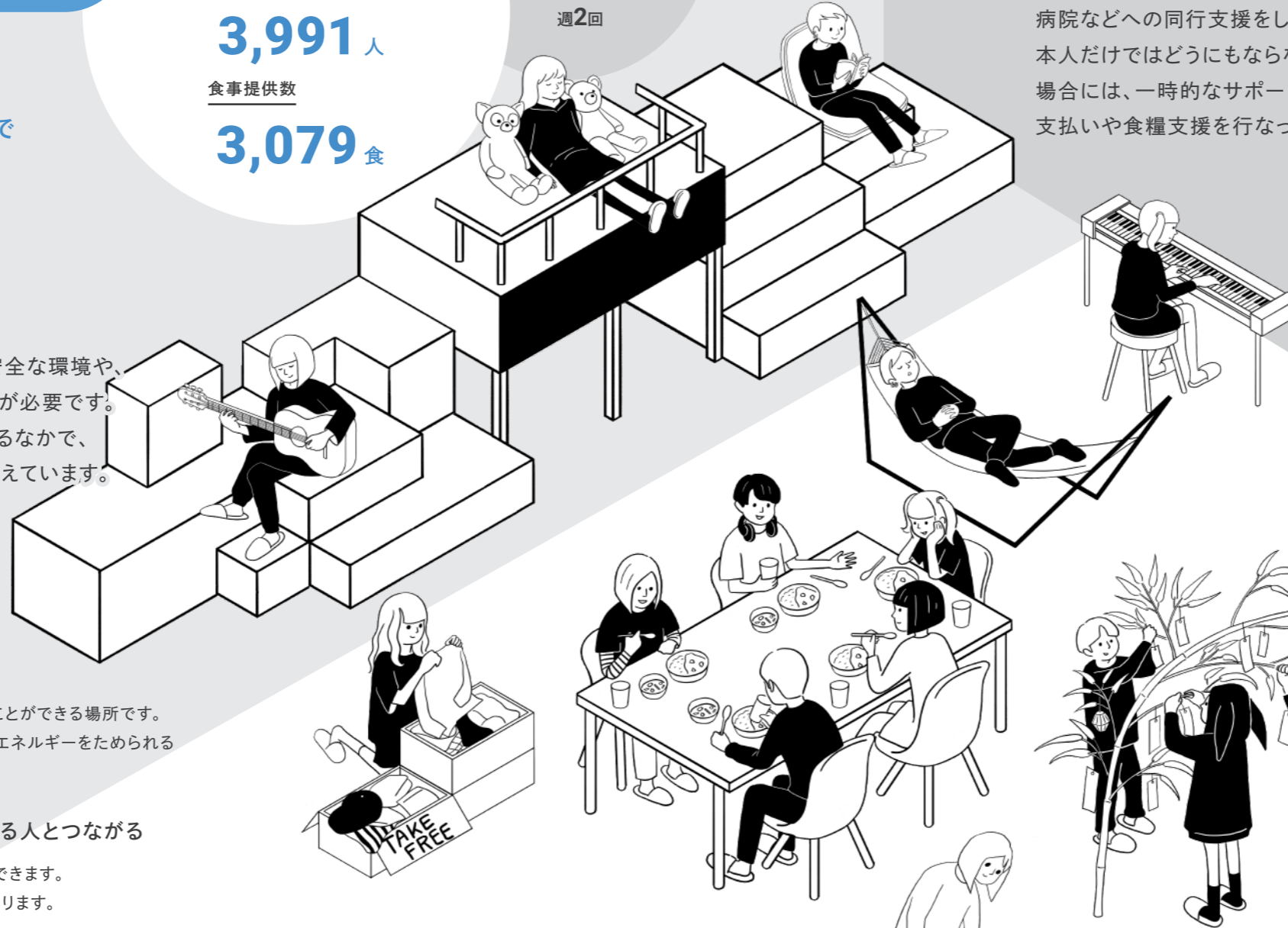
3,079食

開所時間

16~22時

開所頻度

週2回



開所日以外の日にしていること

ユースセンターを開けていない日は、
ひとりひとりの利用者との個別面談や
病院などへの同行支援をしています。
本人だけではどうにもならない環境に置かれている
場合には、一時的なサポートとして医療費・宿泊費の
支払いや食糧支援を行なっています。

面談では気持ちの受け止めや状況のヒアリングをします。
その際に利用者本人が今できていること、そして私たちが
何が出来るかを伝えます。この先も人の手を借りながら自分
なりに生きていける環境をつくることを目指しています。人
の手を借りることが辛い経験にならないように、他機関につ
なげる際には事前に話す内容を確認したりして、ハードルを
少しでも下げています。

マネジャー:野津



ユースセンターの機能

1 エネルギーをためられる

ごはんを食べたり、仮眠を取ったり、ゆっくりすることができる場所です。
ゲーム、演奏、漫画を読むなどそれぞれの方法でエネルギーをためられる
安全な場をつくります。

2 これからについて一緒に考えてくれる人とつながる

スタッフが常駐し、生活や仕事のことなどを相談できます。
行政や病院、専門機関へ一緒に同行することもあります。

3 自分の意見が尊重され、主体的に活動ができる場所

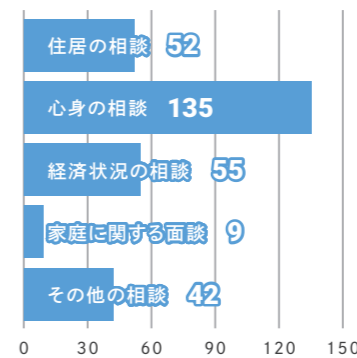
自分の状態や気持ち、権利が尊重されることを大切にしています。
例えば食事を食べるか/食べないかなども
本人が決められるようにしています。
利用者から希望を聞き、クッションや
鍵付きロッカーを購入するなど
内装も充実させました。

多様なステークホルダーとの連携

自分のこれからについて一緒に考える人とつ
ながる環境をつくるため、医療機関や地元の
商店街、自治体などと連携を行なっています。
例えば、株式会社ネクイノさまと連携し助産
師さんがユースセンターに出向く「出張スマ
ルナステーション」を実施しています。医療従
事者が定期的に訪問することで、身体的な不
調や妊娠不安や性に関する悩みなどに寄り
添い、必要に応じて医療機関と連携できる体
制を整えています。

個別面談や 同行支援の 種別

(n=293)



スタッフと一緒に 医療機関に行くことも



2024年度の ユースセンター

チームの運営体制を見直し相談対応強化

居場所の運営、個別会場の提供、面談や同行支援など、
スタッフの役割を3つに分けることで、ユースセンターを利用
する若者に、より早く必要な支援を届ける体制をつくり
ます。また、新システムを導入しバックオフィスの業務効率
化を進めます。

機会提供の連携候補を増やす

繁華街に新しいセーフティネットをつくるためには、繁
華街のなかに、若者の背景に思いを馳せ、否定せず関
わる大人がいることが大切です。地域にいる方々と定期
的なコミュニケーションをとり、機会提供の連携先候補
を増やしていきます。

たくさんの方に支えていただきました。 (2023年4月1日から2024年3月31日まで)

D×Pが、ユキサキチャットでの相談や食糧支援・現金給付支援が実施でき、大阪ミナミの繁華街でユースセンターの活動に取り組めるのは、ご寄付・ご助成いただいている方のおかげです。一部となりますが、サポーターの皆様をご紹介します。

		山田安廣様	村田規子様		
		高島弥寿子様		公認会計士 渡邊淳事務所	渡邊淳様
	KUMAちゃん		藤崎まり子様	藤田耕司様	
					武田雄治様
	Jeane	一般財団法人 日本社会 支援財団			金田洋子様
山上義人様	佐野浩一様			高橋知裕様	
杉山大樹様	小林明子様	木暮太一様	地守亮様	中野陽子様	
一般社団法人 ソーシャル ビジネスバンク	畑中洋亮様			田中茂様	永田勇貴様
	宗教法人 寶松院	白石匡様	安田陽介様	株式会社 富士クリーン	

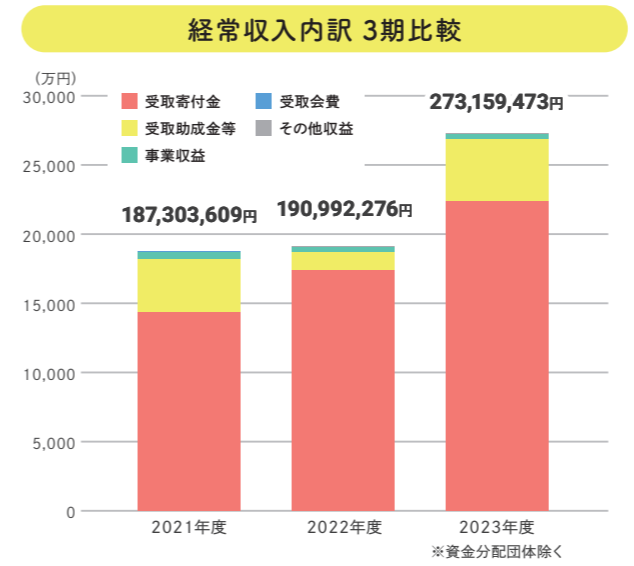
個人の月額寄付サポーターは3,066人、法人は122社とたくさんの方に支えていただきました。単発では4,465人の方にご寄付をいただきました。「今年は物価高騰や電気料金も値上がりし、寄付が必要だと思いました」「若者が生きやすい社会になる事を心から祈ってます」「人に迷惑をかけるな!ではなくて、人を頼って助け合える社会を実現していきたい」とご寄付とともにさまざまなメッセージを寄せていただいています。

月額寄付サポーター **3,188**人

2023年度 活動計算書 (2023年4月1日から2024年3月31日まで)

科目	金額(単位:円)	
	前期 (2022年度)	今期 (2023年度)
経常収益		
受取会費	75,000	55,000
受取寄附金	174,164,724	223,894,728 ①
受取助成金等	12,625,577	290,913,225 ②
事業収益	3,805,484	3,482,154 ③
その他収益	321,491	1,073,366
経常収益合計	190,992,276	519,418,473 ④
経常費用		
(1)事業費		
給料手当/法定福利費	74,483,792	113,583,953 ⑤
福利厚生費	245,769	728,443
旅費交通費	3,556,109	5,844,290 ⑥
消耗品・備品費	666,740	3,274,641 ⑦
賃借料	2,505,849	12,093,330 ⑧
通信費	3,510,933	5,808,664
謝金	2,165,000	1,842,500
業務委託料	14,194,471	52,296,544 ⑨
広告宣伝費	4,432,399	16,569,740 ⑩
支払手数料	8,328,478	12,606,547 ⑪
会議費	653,200	1,109,925
給付支援費	37,394,036	39,278,952 ⑫
減価償却費	1,207,750	2,267,500
支払助成金	0	206,784,543 ⑬
その他	2,293,837	5,059,589
事業費合計	155,638,363	479,149,161
(2)管理費		
給料手当/法定福利費	10,903,401	23,536,275 ⑭
その他	7,232,896	9,651,237 ⑮
管理費合計	18,136,297	33,187,512
経常費用合計	173,774,660	512,336,673
当期経常増減額	17,217,616	7,081,800
経常外収益	0	0
経常外費用	0	20,891
税引前当期正味財産増減額	17,217,616	7,060,909
法人税、住民税及び事業税	70,520	70,529
当期正味財産増減額	17,147,096	6,990,380
前期繰越正味財産額	62,005,730	79,152,826
次期繰越正味財産額	79,152,826	86,143,206 ⑯

※今年度はその他の事業を実施していません。



※紙面の都合上掲載できませんでしたが、すべての勘定科目別に表記されている活動計算書(P/L)、貸借対照表、財産目録、そして監査報告書はD×PのWebサイトに開示しております。合わせてご覧くださいませ。

この活動計算書は会計帳簿の記載金額と一致し、認定特定非営利活動法人D×Pの収支を正しく示していることを認めます。
監事 毛受芳高 (一般社団法人アスパシ)
会計監査 公認会計士 大磯毅 (株式会社わかば経営会計)

受取寄附金
① 昨年度比約4,970万円の増収となっています。うち約1.07億円が定期的なご寄付です。月額寄付サポーターは2,843人→3,066人となり多くの皆様を支えていただきました。

受取助成金等
② 約2.9億円のうち約2.4億円が、休眠預金事業の資金分配団体としての「孤立孤独／生活苦を抱える若者への緊急支援事業」です。若者等の支援を行なうNPO等7団体に資金提供を行いました。残りの約5,000万円はユースセンター事業・ユキサキチャット事業などD×Pの本体事業への助成金となります。

事業収益
③ 大阪府教育委員会より定時制高校での居場所事業を受託した収入が含まれます。2024年3月をもって定時制・通信制高校における事業は一時停止いたしました。これまで自治体の委託費のみで賄えない運営費は、寄付金を充当させていただき、かつ多くのコンポーザー(ボランティア)のご尽力により実現することができました。

経常収益合計
④ 資金分配団体としての事業(約2.4億)を含むため大きな金額となっていますが、D×Pの組織規模実態としては「約2.7億円規模」と言えます。なお、左下の収入内訳グラフは、D×P単体の実際の規模感が見えやすいよう資金分配団体としての収入分を割愛しています。

給料手当/法定福利費
⑤ 皆様からいただくご寄付の多くが、人件費に充てられています。2023年度も全従業員(アルバイト含む)にベースアップを行ない、待遇改善を進めました。またユースセンターの事業立ち上げやユキサキチャットの相談数増に伴い、従業員数は25人→38人に増えました。3年連続でベースアップを行ないましたが、目標とする大阪府の平均給与とのレベルには達していません。若者からの複雑性の高い相談を多数受け取り、幅広い専門性と業務遂行能力が求められるD×Pの従業員がパーミアウトせず持続可能に働くことができるよう、今後も待遇改善を進めます。

旅費交通費
⑥ 昨年度より約228万円増えています。ユースセンターを開所しない日は、相談者と一緒に役所や産婦人科などの医療機関、弁護士事務所などに同席する「同行支援」を実施しており、移動にかかる費用が増えました。

消耗品・備品費
⑦ 2023年6月にユースセンターを立ち上げたため、机・椅子・電化製品・調理道具・ロッカー・モニターなど備品を多数購入し約260万円の支出増です。なお、ゲームソフトやぬいぐるみ・電子ピアノ・衣服など多数はご寄贈いただいており、支出を抑えつつ若者を迎えるスペースを一緒につくっていただきました。

賃借料
⑧ 昨年度より約958万円増えています。大阪ミナミの繁華街にあるユースセンターは広さ約50坪、賃借料も非常に高額です。しかし、グリ下至近に設立できたことで利用者数も約3,991人に。雨風がしのげ、温かい食事も提供できるようになりました。

業務委託料
⑨ ユキサキチャット事業部の相談員の一部は、業務委託契約で相談対応を担っています。2023年度も引き続き相談者数が激増したため、相談員を増員した分委託費が増えています。

広告宣伝費
⑩ 困り感のある若者にユキサキチャットや食糧支援の存在を知ってもらい、頼り先として想起してもらいやすいよう2023年度もLINE広告・インスタ広告を出して周知しました。相談窓口をつくって終わりではなく、頼り先を持っていない若者に出会う施策も進めてまいります。

支払手数料
⑪ ユキサキチャットを運営するためのLINEと連携するAPIシステム利用料や、寄付受け取りのためのシステム利用料、現金給付実施による振込手数料も含まれています。

給付支援費
⑫ 若者に送る食糧や日用品の実費や、家賃等生活費のための給付金、ユースセンターや居場所事業で提供した食べ物代等が「給付支援費」にあたります。妊娠や性病等による医療機関への受診料も負担しました。ユキサキチャットでの食糧支援は昨年度対比で約1.5倍増となりましたが、多くの方がAmazonのほしい物リストなどから現物を寄贈してくださったことで、物価高による負荷を軽減できました。

支払助成金
⑬ 新しい勘定科目です。先述の「孤立孤独／生活苦を抱える若者への緊急支援事業」で、資金分配団体としてNPO等7団体に助成を行なった金額となります。当事業を通して計12,765人の若者に、新しくアウトリーチすることができました。

給料手当/法定福利費(管理費)
⑭ 経理・総務・労務・法務等を担う管理部門の職員数を2人→4人に増員してのスタートでしたが、ユースセンターの立ち上げ・全従業員数の増加・予算規模の増加に伴い、業務量に対して人員数が追いつかない場面が多くなりました。人員数確保およびリスク管理体制強化のため年度内に追加で法務担当を1人採用しました。

その他(管理費)
⑮ うち業務委託料約222万円、支払手数料約195万円、支払報酬料約152万円、減価償却費約53万円(主にPC購入分)などが主な支出です。会計不正防止のため複数人で実施する体制をつくるべく業務を一部代行しているほか、専門家への顧問契約料も増加しています。勤怠管理や会計など業務を簡略化するためのサービス使用料も含まれます。今年度の管理比率は12.2%(※組織の規模実態を示すため資金分配団体としての費用を除き計算)です。D×Pでは、管理費は不正を防止し安全に運営するために必要不可欠なコストと考え、引き続き必要経費を支出してまいります。

次期繰越正味財産額
⑯ 約8,600万円を次年度に向けた資金として繰り越しました。この資金を土台にD×Pでは、ユキサキチャット・ユースセンターともに追加採用を実施し組織基盤強化を行ないます。また、ここ数年の逼迫した現場の状況を鑑みて各現場の強化を重視しており、経営面の強化がおそろいになったことも反省点であったため、財務・人事・CIの強化を進めます。経営安定の指標となる自己資本比率は約44%と去年に比べて下がっていますが、無収入寿命(仮に収入がゼロになっても現状維持ができる期間)は約6.9ヶ月分の確保となりました。将来の緊急事態にすぐ対応できるよう十分な資金を確保しつつも、いま困窮する若者の即時支援ができるよう引き続き不足する資金の寄付を募ります。